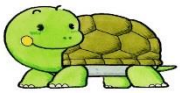
福生市立福生第六小学校　　NO.６１５　　令和６年４月８日

校報かめのこ



か　考える子
め　めげない子
の　伸びる子
こ　心豊かな子

福生六小ホームページ　http://fussa-6e.hs.plala.or.jp/

入学、進級おめでとうございます

福生市立福生第六小学校
校　長　　富永　大優

今年は、桜の花びらが舞う中で、新しい学年が始まりました。福生第六小学校の児童のみなさん、そして保護者の皆様、入学、進級おめでとうございます。私は、この４月に校長としてまいりました富永大優（とみながたいゆう）です。子どもたち一人一人の学校生活が充実したものとなるよう教職員一同、力を合わせて努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、先日、副校長とともに学校の周辺を歩いていると、公園で遊んでいた子どもたちが元気に、そして満面の笑みで挨拶をしてくれました。私が校長であることは、子どもたちはもちろん知りませんので、副校長に挨拶するときに一緒にいた私にも挨拶をしてくれたようです。ですが、その挨拶の爽やかさは、春の陽気にもあいまって私の心にすーっと入ってきました。ほんの短い挨拶一つですが、人を幸せな気持ちにしてくれるのだなあと改めて感じるとともに、それが何の戸惑いもなくできる子どもたちに感動しました。しかもそのあと、歩いていく副校長に向けて「気を付けて行ってきてね」と声をかけてくれました。きっと相手を思って自然に心から言葉が湧き出てきたのだと思います。

私は、幼い頃、祖母に世話になっていました。仕事をしていた親の手伝いとして田舎から出てきてくれて、随分の間、私たち兄弟の世話をしてくれました。小学校の授業参観や保護者会へも来てくれていたのを覚えています。祖母はとても話をする人で、今で言うところのコミュニケーションの力が長けていたのだと思います。時にはバス停でバスを待っているときも横の人に話しかけていました。どちらかというと引っ込み思案だった私は、その祖母の横で、恥ずかしい気持ちで立っていました。そんな祖母ですから、当然、買い物に行ってもどこに行ってもにこやかに挨拶をしていました。今、この年になると祖母のしていた挨拶が、相手とのつながりを作り、広げていたことが分かります。そして、そんな地域の方たちは、子どもだった私にも声をかけてくれました。祖母の挨拶をしていた人達が見守ってくれていたのだと今は思います。

学校では挨拶の大切さを伝えるとともに、実践していくことを機会あるごとに話しています。ですが、先日の福生第六小学校の子どもの挨拶を思い返しながら、やはり家庭の力や地域の力がとても大切なのだと思いました。

元気のよい挨拶ができる子どもたちとともにこれから学んでいくことが楽しみであるとともに、やはり家庭、地域とともに子どもたちを育てていくことの大切さを感じています。子どもたちが健やかに育っていくよう今後も保護者、地域の方々とともに育てていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。